

ライフコースアプローチによる地域健康づくりの展開

長 優 子

Enhancement of the community health promotion by the life course approach

Yuuko Chou

“ライフコースアプローチ”について、行政に勤務する歯科衛生士として学ぶ必要性を感じ、第13回コロキウムに初めて参加させていただいた。

地方自治体の課題は時代と共に変遷してきた。日本経済が低迷する中で住民ニーズは多様化し、子育て支援や高齢者対策のみならず、地域・社会全体での取組みが求められるようになった。

地域歯科保健の課題としては、幼児期、学齢期のむし歯罹患状況はこの30年程の間で改善してきたこともあり、高齢者対策をより拡充すべきという声が行政の中で増えてきた。特に市区町村に勤務する歯科衛生士は、これまで母子保健対人サービスに多くの時間を費やしてきたが、今後は学齢期のむし歯・歯周病予防、成人期の生活習慣病予防対策、超高齢社会を見据えた歯科保健医療の基盤整備等、より多くの課題に取り組んでいかなければならない。

このような背景の下、今回ライフコース疫学について学んだことが、日々肌で感じている地域の健康格差問題を紐解いていくベースになると感じ

た。「全ては胎児期から始まるリスクの蓄積にある」この言葉を鍵として、胎児期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期と、これまでのライフステージごとの断片的な関わりだけではなく、生涯保健として連続してとらえるライフコースという概念に基づいた健康づくりの施策展開を意識していきたい。地方分権が進み、地域の課題への対応は地域が考え、柔軟な施策が求められるようになった。地域の特性を踏まえた健康づくりを推進するために、地域資源を掘り起こしそれらをつなげる役割を担う中で、人がどのような環境でどう生きているかを見つめる視点が大切であることを学んだ。

今回のコロキウムでは、最新トピックスとして、ドライマウス、病棟での歯科衛生士による口腔ケアの重要性、医科歯科連携、産業歯科等々、多くの新しい情報を得ることができた。中でも歯科疾患の疫学は興味深く、20歳から60歳は免疫系に守られ、抜歯数が最も多いのは60歳から64歳と聞き、高度な歯科治療を受けてきた団塊の世代の8020はどうなるか考えさせられた。今後も継続し学ぶことで、地域の健康づくりへと還元していきたいと考える。

【著者連絡先】

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西3-10-1

江戸川区健康部健康サービス課

葛西健康サポートセンター

長 優子

TEL : 03-3688-0154 FAX : 03-3878-9834

E-mail : yuuko-chou@city.edogawa.tokyo.jp